

リンネ大学 留学体験報告書

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	課程 共生社会教育 専攻・コース 国際共生教育 学年 4年 氏名 屋敷 輝
留学・研修等の期間	2010年 8月 25日 ~ 2011年 6月 10日
留学・研修等の国、大学名	スウェーデン、 リンネ大学
留学・研修等の種類	交換留学
奨学金名（金額）	日本学生支援機構（毎月8万円・返済不要）
留学・研修等の目的・動機	語学、教育、
求められた語学力 及び具体的な準備内容	大学の選考に沿ったレベルの TOEFLiBT のスコア。 語学学校のようなものではなく、授業に入るため ディスカッションに対応できる語学力が不可欠。
留学・研修等の選考方法	TOEFLの点数の提示、志望動機に関するEssay、 英語面接、GPAの考慮。
情報収集方法	実際にリンネ大学から研修に来た学生から。過去に留学した 先輩、教員の先生方から。連携推進課。
語学クラスの状況 （人数、内容等）	基本的になし。
履修科目・内容	Peace and Development, 教育系の授業、 スウェーデン語（単位なし）
先方大学等の 単位認定状況	試験や、レポート提出などで一定の基準をクリアすれば単位が 与えられる。どちらも再テスト、再提出の機会がある。授業に よる難易度の差、形式の違いが大きく、注意が必要。
本学での単位認定状況	卒論以外の単位は全取得済み。
学年歴 （学期・試験・休暇等）	Fall Semester（前期）8月末～1月

	Spring Semester（後期）3月～6月
履修に関する留学先大学のサポート（チューター等）	International office, buddy, friend family
学習環境（図書館等）	利用環境、デザインに優れた図書館、 24時間利用可能なパソコン室も。
居住環境	寮 ホームステイ アパート その他（ ）
生活費（月額）	7～8万（円高の影響で少し変化あり）

物価（食費、住居費等日本の物価と比較して）	物価は少し高めだが、外食を控えればそれほど高くは感じない。 寮費も光熱費やインターネット料金を含んでおり、高くはない。
留学・研修等の必要総額（渡航費、生活費を含む）	120～130万円
治安状況	良い。ただ冬季は暗い時間が長いので注意が必要。
保険	AIU
その他注意すべき事項	気候、個人的には寒さよりも日照時間の増減の大きさが適応しづらい。また雨も多い。 最初の段階で、寮費、必要物資の購入など多くの場面で出費が多いのでカードの限度額、現金に注意。 電車、バスなどの公共機関のシステムが大きく違うので事前の確認があると良い。 何か日本らしいものを持っていくと役に立つかも。 ビザの申請は時間がかかるので早めに。 ヨーロッパは学生の特典があることが多いので、国際学生証などをもっていると役に立つ。

留学・語学研修等体験レポート（自由記述）

私がスウェーデンを意識し始めたのは、リンネ大学（当時はヴェクショー大学）からの短期留学生の受け入れやお世話をした時だった。それからスウェーデン自体にもそこへの留学への気持ちも芽生えてきた。それから気づかされたのは、文献などから見たスウェーデンの福祉においてだけでなく、教育分野やエネルギー問題に関する先進性である。そういったことを肌で感じる事ができたのが今回の留学だと思っている。

授業の難易度やその大変さについては他の、また過去の先輩方が言及しているのでそれ以外について書きたいと思う。まず向こうの学生は全体的にとってもメリハリができる学生であるということを感じた。例えば、授業では私よりも意見を言う学生が娯楽の場においてもとてもはしゃいでいて、頭のスイッチがしっかりと切りかえられるのだなと感じた。いい意味で当たり前に予習・復習それから授業と勉強し、騒ぐときは騒ぐといった環境がそこにはあり、とても驚かされた。まだ授業に関して言えば、何時間も講義やディスカッションのもあれば、学校や学外の施設へと実際に行って話を聞いたり、学外からゲストを呼んでディスカッションを行ったりと、とても開かれた大学だという印象を受けた。学生を見ても多くの国から多様な考えを持った学生が集まっているために枠にはまった閉鎖的な、固定化した議論にならず、自由な発想で、開放的な、未来志向で、建設的な議論であったように思う。

またそれ以外でも友達や Friend Family との交流やサッカーを通じた交流は私にとって留学の中でとても重要だったことである。友達というのはスウェーデン人ももちろんいけば、ヨーロッパ、遠くは南米やアフリカなどからの留学生もおり、そんな人たちと英語で文化や政治、時には国際情勢に至るまで話し合ったことは私の視野を広げ、かけがえのない財産になったと思う。一方 Friend Family についてはスウェーデンのことについて深く、ゆっくりと知る機会になった。実際の家庭にお邪魔したり、一緒に食事をしたりする中で、何気ないことや些細な違いについても感じる事ができ、また気軽に話しあうこともできた。こういったことこそ、長期滞在中で信頼関係を築いてこそできることだと思う。さらに、自分はサッカーをしていたことで、多くの友達、いろいろな機会を得ることができた。サッカーは世界共通であり、国境もない。そんな中で、いろんな国の人と一緒にサッカーをすることは、言葉以上にわかることもあり、通じ合えることもある。キャンパス内の大会や自分はスウェーデンのリーグにも参加をして、存分に楽しみながら、多くの交流をし、信頼できる友達も増えた。確かに勉強は大切だが、このようにいろいろな機会に積極的になったり、何か 1 つ自分の趣味や特技を生かしたりすることで、留学期間がより一層深く、充実したものになると思う。またそういった出会いの中で、ヨーロッパの国々に実際に会いに行ったり、教えてもらったプロジェクトへ一緒に参加したりとその場にとどまらず、持続的な関係が築けていることも大きな財産である。

またいろいろ驚いたことや気づいたことがあるが、一番驚いたのは 1 人 1 人の人と社会全体の意識の高さである。例を挙げるなら、男女平等や人権さらには自然環境への意識の高さというか徹底ぶりである。例えば、リサイクルの意識だったり、選挙への意識だったり、また（これが一番インパクトが強かったかもしれないが）トイレには男女の区別が基本的でない。扉には男女両方のマークがあって、誰もがそのトイレを使える。その他にも、大学内には身体障がい者への配慮があるだけでなく、そういった人たちが働く場所も確保している。そんなことに違和感もなく当然のように暮らせる環境って素敵だなと感じた。

今回学び、そして感じたことは自分の中の常識を一旦置いて、自分がどういった環境に住み、どういった考えを持つ人がいるのかを直に知るためのいい機会だったと思うし、“国際共生”ってこういうことなのかなって思った。できるだけ多くの学生がこういった機会を得て、自分なりの世界を構築してほしいと思う。今回このような機会を得られたこと本当に感謝しています。ありがとうございました。

リンネ大学 留学体験報告書

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	課程 共生社会教育 専攻・コース 国際共生教育 学年 4年 氏名 根木 勇也
留学・研修等の期間	2009年 8月 25日 ~ 2010年 6月 11日
留学・研修等の国、大学名	スウェーデン、リンネ大学
留学・研修等の種類	交換留学
奨学金名（金額）	日本学生支援機構（毎月8万円・返済不要）
留学・研修等の目的・動機	英語学習・卒論研究テーマの学習
求められた語学力 及び具体的な準備内容	大学に沿ったレベルのTOEFLスコア。まず選考においてスコアが必要とされるのでその獲得。
留学・研修等の選考方法	TOEFLの点数の提示・留学担当の教員との英語面接
情報収集方法	過去に留学した先輩や、担当教員との話。ネット。
語学クラスの状況 （人数、内容等）	当大学では語学クラス（英語）はない。
履修科目・内容	初等英語教育（教育実習含む）・社会学
先方大学等の 単位認定状況	前期一部不可あり
本学での単位認定状況	卒論以外の必要単位は全取得済み
学年歴 （学期・試験・休暇等）	前期・後期の2学期。試験は主に各コースの最終週。4月にイースターと呼ばれる国民の連日休暇があった程度。
履修に関する留学先大学の サポート（チューター等）	希望をすればbuddyと呼ばれるチューターがつく。
学習環境（図書館等）	図書館は金土日を除き22時まで開館。学習には良好。
居住環境	学生寮

生活費（月額）	家賃4万＋食費・娯楽費約5万＝約9万
物価（食費、住居費等 日本の物価と比較して）	食べ物の価格は物によるがそれほど高くないため、食費については外食を控えれば安く抑えることができる。その他全般の物価は日本より少し高めという程。
留学・研修等の必要総額 （渡航費、生活費を含む）	渡航費12万＋生活費9万×10ヶ月＝約100万円
治安状況	極めて良好。日本で気にする程度の最低限の防犯意識を持ち合わせれば、まず犯罪に巻き込まれることはない。ただし夜の酔っ払いには注意。
保険	年5万程度の留学生向け保険に加入
その他注意すべき事項	スウェーデンの冬は異常に寒いというイメージがあるが、そこまで気にかけて防寒具を持っていく必要もない。現地でもH&Mなどで安く質の高い衣服も揃えられるし、室内は日本より実は構造上暖かくなっている。そして夏は日差しも強く湿気がないためカラッとしており日本の夏より過ごしやすい。 むしろ注意すべきは冬の日照時間の少なさによる体内リズムの崩れと、ヴェクショー特有の雨の多さである。

留学・語学研修等体験レポート（自由記述）

これを見て留学を決意する学生も居ると思うので、その方々の目線に立って報告していこうと思う。留学前の私は、他者からの伝聞含め、留学が自分にもたらす影響として英語力の向上、価値観・視野の拡張といった大まかなイメージを持っていた。兼ねてから語学としての英語に興味を持ち、また文化の違いを（例えば日本在住の海外留学生から）聞くのも好きであったために、とにかく英語圏の国に留学するのが目標であった。そのためリンネ大学を選んだのは、実は大学では英語で授業が行われている事と、TOEFLの点数含め留学の審査がさほど難しくないといった半ば安直な理由からであった。

リンネ大学では前期に初等英語教育、後期に社会学と教育学のコースを選んだ。私は福岡教育大学在籍でありながら教師を目指していないのだが、なぜ教育学を選んだかということ、本来の専攻の授業を受ける前にまず英語に慣れたいという願望があったからである。過去に同じくリンネ大学に留学した先輩の話を知ると、教育の授業は他の科目よりも内容が易しく英語に慣れるには最適であり、尚且つ現地の学校にも訪問できると言うので選ぶことに至ったのだ。結果的にこの選択は成功であった。なぜなら前期の教育コースには英語文法の授業も含まれており英語自体の勉強をできたのと、初等英語の授業とだけあって内容もさほど苦にならない程度であった。そして小学校実習を1ヶ月ほど行ったことにより、現地の小学生や学校システムの違いなどを目の当たりにすることにして自分の求めていた「文化の違い」も学ぶことができたと思う。

一方後期には移民やナショナリズムを扱った社会学の授業を受けたのだが、ディスカッション形式+読み物の多さによって、自分の英語力と発言力の無さに気づかされる。それにより前期の選択が間違っていなかったことをいっそう思い知った。発言はあまりできなかったものの、スウェーデンが抱える移民問題（スウェーデンは意外と移民が多い）や、逆に日本が抱える外国人問題など初めて知ることを学習できたため結果的には満足している。

授業の話がメインになってしまったが、授業で苦しめられる分、日常生活はほぼ全てが新鮮で楽しいものだった。スウェーデンは日本のカラオケやゲームセンターのようなお金を払って遊ぶ場所が少ないため、必然的に他の留学生たちと話したりお酒を飲んだり旅行することが娯楽の全てになってしまう。ちなみに日本に興味を持っている留学生やスウェーデン人（行き過ぎればオタクのような人）もたくさん居て、そんな友達にはかなりお世話になった。

さて、留学後に自分がいかに変わったかを一つずつ振り返ってみると、まず日本についての知識が逆に増えたと思う。例えば授業のディスカッションの際に色んな国の留学生と議論するわけだが、その時に自分の国の例を出すことがどうしても必要になってくる（自分の場合は授業的に教育システムの違いや外国人に対する法律の違いを述べた）。また友達との会話でも相手から聞かれることや、会話を続けさせるために必要になることもある。それ故、日本について向こうで改めて調べたことや知ったこともたくさんあった。また二つ目に、それをいかに相手に伝えるかも考えさせられた。日本語よりはるかに少ない英語の語彙力で、どう順序立てて説明すれば相手が理解できるかが当初の自分の課題でもあった。それは日本に帰ってきてからも生きており、未だに日本語でもどうすれば相手に伝わり易いのかを意識して

いる。そして三つ目に、色んな既存のものに疑問を持つようになったと思う。向こうでは習慣・法律・システムのほぼ全てが日本と違うので、日本に帰国した際に例えば道を歩いている時でさえ何かにつけて考えさせられるようになった。故に留学前の自分が考えていた留学による価値観・視野の拡張はまさにこの事だと認識することができた。

最期に肝心の英語力であるが、正直に言えば日常会話レベルほどしか上達していないのではないかと意識している。まずスウェーデン自体、国民ほとんどの英語が流暢と言っても所詮第2言語としての英語である。またアメリカ・イギリスなどの英語が母国語の留学生を除き、周りの留学生の英語もそこまで流暢といえないこともある。それゆえ私がイギリスに旅行しに行った時に彼らネイティブの英語が思った以上に聞き取れなかった。ネイティブの英語が本物とまでは言わないが、英語を主眼に置いた留学をするならばそれ相応の国に行くことが道理であり、そう考えている人が居れば参考にさせていただきたい。しかし私自身過ぎたことは後悔しておらず、むしろそんな発想至ることができたこの留学に大変満足している。

リンネ大学 留学体験報告書

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	課程 中等英語 専攻・コース 英語 学年 4 氏名 小森優樹
留学・研修等の期間	2009年 8月 25日 ~ 2010年 6月 7日
留学・研修等の国、大学名	スウェーデン、リンネ大学
留学・研修等の種類	交換留学 私費留学 語学研修 インターンシップ ワーキングホリデー
奨学金名（金額）	日本学生支援機構（JASSO） 月額8万円
留学・研修等の目的・動機	語学、教育
求められた語学力 及び具体的な準備内容	TOEFL（IBT） 70点ほど
留学・研修等の選考方法	TOEFL, 英語面接、英語エッセイ
情報収集方法	連携推進課
語学クラスの状況 （人数、内容等）	約15名
履修科目・内容	English for Primary Teachers Intercultural Competence and Understanding Global Perspective on Education
先方大学等の 単位認定状況	60単位登録して40単位は確実。あとはまだわかりません。
本学での単位認定状況	検討中
学年歴 （学期・試験・休暇等）	秋・春セメスター
履修に関する留学先大学の サポート（チューター等）	International office, buddy, friend family
学習環境（図書館等）	図書館 （月一木：8-22、金：8-18、土日：10-18） キャンパス（24h）PC使用可能

留学・語学研修等体験レポート（自由記述）

- 勉強 自分が最も成長したと実感できたのはやはり勉強を通してです。クラスで与えられた課題は最低限しました。といっても授業の予習で余裕がなく、プラスαの勉強はなかなかできませんでした。授業はディスカッション中心なので予習はその準備です。新たな知識や理解を身につけ、深め、自分の立場や意見をできるだけ明白に言えるようにします。そして授業で先生や他の学生で意見を交換し、深め、次の課題をみつける、といった流れが多かったです。初めは慣れない環境できつい思いもしました。英語の表現力不足と背景知識の乏しさを痛感し、ある程度時間をかけないとなかなか要領もつかめませんでした。クラスで紹介されたテキストを使う以外にも、関連する資料を探したり過去の学生が書いた論文を読んだりしながら自分で学ぶことを身につけました。必要な資料はスキャンしてそれをコピーし、ファイルにまとめました。私の領域は英語教育ですが、社会に存在するすべての問題、特に人権、子ども、環境問題など幅広く興味があったので、将来どのように教育現場に活かすことができるかなどを考えながら勉強していました。どんなに些細な疑問や意見でも発言し、クラス全体で受け入れるといった雰囲気、私が受講したどのクラスにもあり、学生が授業の流れを作るといった感じでした。個人でのプレゼンレーションやロングエッセイは試行錯誤しながらやり遂げることができました。早めに計画を立て、目標を明確にすることが大事です。すべて計画通りに行くことが成功ではありません。むしろ失敗や課題を取り上げ、次につなげるための改善点を検討することが大事です。努力した分、期待する結果がついてくるとは限りませんが、絶対に無駄にはならないと思います。学校を最大限に活用してください。自分が思っている以上に可能性は広がると思います。
- 生活 人との出会い、人間関係がすべてとっていいほど日頃のコミュニケーションは欠かせません。世界中から来た学生と過ごすので、価値観、考え方、行動など違うのが当たり前です。違いを認め合い、尊重することが大事です。しかしありのままの自分を貫き通すことや、自分が不快に感じる相手の言動を我慢して受け入れることではありません。よりよい人間関係を築くために問題を解決する姿勢が必要です。自分の意見を伝え、同時に相手にも耳を傾けるように心がけました。その場で伝えることができなかつたときは、メールをしたり他の友達にアドバイスをもらったりしていました。共同スペースの掃除や料理の時間はとても良いコミュニケーションの機会です。日本の文化を紹介したり、和食を振る舞ったりしました。
- バレーボールチームに所属し、週に2回キャンパスの体育館で練習しました。ほとんど現地の学生だったのでそこでスウェーデン語を勉強することもできました。スポーツも大事なコミュニケーションのひとつです。言葉で表現することが苦手でも一緒に体を動かし、楽しむことは誰にでもできるので挑戦する価値はあります。

出発まで

荷物を送る場合は SAL 便がお勧め。

船便が 1 番安いですが、ベクショーまで届かなかった人もいます。1 か月以上はかかります。SAL 便で被害にあった人は私の知る限りいませんでした。2, 3 週間程度で届きます。寮は当日にならないとわからないので、International Office 宛に事前に送ることが可能です。なので、持っていく荷物が決まっていれば、早めに送ることを勧めます。

帰国する際にいろいろなものを大量に処分する留学生が多いので、必要以上のものは送らない方がいいです。郵送料も高いです。この 1 年くらいファッションはどうでもいいと開き直って最低限のものを持っていきましょう。どうしてもほしくなれば現地で調達できます。

ベクショー駅—キャンパス

電車の中で大荷物を持った学生らしき人がいたら、おそらく交換留学生。

話しかけてみたら緊張がほぐれます。

V I S (Vaxjo International Students) のスタッフが駅まで迎えに来てくれるのでバスに乗る必要はないと思います。

ロゴが入ったパーカーを着ていると思うのですぐ見つかります。車に乗ってキャンパスへ向かいます。もしも V I S が見当たらなければ、バスでキャンパスまで行きます。

バスのナンバーは 1, 5, 7 のうちどれか。

値段は 20 sek です。1, 5 はキャンパスの近くの ICA の前で降ります。少しわかりにくいので、初めは 7 に乗ったほうがいいと思います。キャンパス内のバス停まで行くので確実です。

キャンパスで説明会

ここでは簡単な寮についての説明をうけ、書類を受け取ります。

終わったら寮へ。車で案内してくれます。

寮について

- PG・・・コリドー。PG10,12,14,16 がある。
- Lyan・・・コリドー。Lyan61,62 がある。
- Stalvagen・・・アパート。
- Vallgatan・・・コリドー。オフキャンパス。駅の近く
- Semi・・・コリドー。オフキャンパス。

当日までどこの寮に入るかわかりません。基本的にコリドーだったらキッチンスタッフは

揃っていて、みんなでシェアします。冷蔵庫、棚などは個人のスペースが確保されるので心配なく。食材はICAかWillysで買う人が多いです。ICAの方が近いですが比較的高いです。10分くらい歩いてWillysまで行くことをお勧めします。品揃え、価格が断然いいです。日用品もある程度はあります。その他生活する上で必要なものは、地下ゲット（前回留学した日本人のセカンドハンドがもらえる）かVIS主催のフリマが終わってから買い出しに行くほうがいいと思います。

オリエンテーション期間

しんどいですが、耐えましょう。

- **Union Card**・・1セメ 250sek。Café tuvanの建物の中に**Student Union**があります。窓口で簡単な手続きをすると、2週間後にカードが送られます。カードが送られてきたら**K-building**の**Reception**に行き、暗証番号の設定をしてもらいます。自分の好きな番号4ケタをこの時に伝え、登録してもらうだけです。このカードは図書館カードにもなります。図書館にある機械で登録をして、**Reception**で手続き完了です。
- **VIS Card**・・1セメ 250sek。（曖昧）VISのスタッフが企画するイベントに参加することができます。参加費は別に要ります。私は秋セメだけ入りました。基本的に旅行かスポーツイベントです。他の留学生とも知り合えるしスケジュールも組んであるので安心して行けます。

リンネ大学 留学体験報告書

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	課程 中等教育・英語 専攻・コース 学年 4 氏名 小川佳郎
留学・研修等の期間	09年 8月 25日 ~ 10年 6月 4日
留学・研修等の国、大学名	スウェーデン、リンネ大学
留学・研修等の種類	交換留学
奨学金名（金額）	JASSO留学生交流支援制度 ¥80,000/月
留学・研修等の目的・動機	語学力向上、教育学の研究
求められた語学力 及び具体的な準備内容	TOEFL (IBT) 60点以上が望ましい
留学・研修等の選考方法	志望動機のEssay (A4用紙1枚程度) + 英語面接
情報収集方法	・留学を目指す人のために・前年度留学者から
語学クラスの状況 (人数、内容等)	授業によるが、専門性が高い
履修科目・内容	English Education for Primary School
先方大学等の 単位認定状況	単位取得は難しくはない。再テストもあり。
本学での単位認定状況	卒論の単位以外取得済み
学年歴 (学期・試験・休暇等)	Fall Semester (前期) 8月～1月 Spring Semester (後期) 3月～6月
履修に関する留学先大学の サポート (チューター等)	Buddy, Friend Family, Language Exchange Student
学習環境 (図書館等)	図書館 (PC, Studying Room多数あり)
居住環境	寮 ホームステイ アパート その他 ()
生活費 (月額)	¥100,000前後

物価（食費、住居費等 日本の物価と比較して）	寮費は¥45,000程度。消費税は25%
留学・研修等の必要総額 （渡航費、生活費を含む）	¥1,000,000
治安状況	比較的良い
保険	AIU
その他注意すべき事項	申請の際に、寮の希望を聞かれるので、キャンパス内希望と しておいたほうが良い。

留 学・語学研修等体験レポート（自由記述）

私は本大学で英語教育学を専攻しているので、入学当初から漠然ではあるが“留学したい”という意思を持っていた。本大学は、英語圏ではアメリカ、オーストラリア、スウェーデンの大学と協定を組んでいるが、私がスウェーデンを選んだのにはいくつか理由があった。

1つはスウェーデン国内での“英語”の位置付けである。スウェーデンには母国語としてスウェーデン語があり、英語は第二言語である。にもかかわらず彼らは流暢に英語を話すことができる。そこで英語教育を専攻している私からすれば、現地での教育、特に今日、日本でも話題であった小学校英語教育について研究ができるということであったので興味を引かれた。留学中には小学校英語教育を様々なアプローチから学ぶことができ、実際に現地の小学校へ5週間ほどの教育実習に参加することもできた。そこでは担当の先生と話すことで日本とスウェーデンの英語教育はもちろん、実際の教育現場の比較もでき、大変有意義な体験であった。

2つ目としては、リンネ大学への留学生の多さである。ヨーロッパ圏ではイギリス、ドイツ、フランスをはじめ、トルコやパキスタン、アフリカ、アメリカ、もちろん韓国や中国といったアジア諸国、まさしく世界中から留学生が集まっているため、様々な発音の英語を聞くことができるのである。アメリカやイギリスのような英語を母国語とする国で勉強するのも魅力的ではあるが、異なる国籍を持ち、それぞれが異なる母国語を持つ人が“英語”を用いてコミュニケーションを図ることで、コミュニケーションツールとしての英語の役割を強く認識できる。

また、リンネ大学は留学生に対するサポートが充実しており、大学のオフィスをはじめ、希望すれば現地の学生がバディーとなって学校生活のノウハウを教えてくれたり、フレンドファミリーという、スウェーデンの一般家庭がホストとなってスウェーデンの生活文化を体感することのできるプログラムもあったので、とても充実した留学生活が満喫できた。さらには、大学で日本語コースがあり、現地で日本語を勉強している学生も多いので、機会があればボランティアとして授業に参加し、交流を深めることができた。私はそれらに積極的に参加したし、運が良いことに、大学近くの日本語クラスのある高校にもボランティアとして通い、高校生と触れ合うこともできた。

このように、自らやりたいことを探せばいくらでも充実した留学生活が送れるというのはスウェーデンで勉強することの大きな魅力であった。留学で得た経験は誰もが得ることのできるものではないし、私のように英語教師を目指すものだけでなく、これからグローバル化が進む社会で働こうとしている学生にとっても貴重な体験になるに違いないと思われる。